

# 病害虫発生予察注意報 第 1 号

## 病害虫名 果樹カメムシ類

- 1 発生予想 果実を吸汁加害するカメムシ類が、今後多発する恐れがある。
- 2 対象地域 県下全域の果樹栽培地帯
- 3 根拠
  - (1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数が、立科町で 7 月第 3 半旬、宮田村で 6 月第 2 半旬、高森町で 7 月第 3 半旬から急増している（図 1、図 2、図 3）。
  - (2) チャバネアオカメムシ多発年には、クサギカメムシなどの他の果樹カメムシ類も同時に多発する傾向がある。
  - (3) フェロモントラップを設置していない他の地域の果樹園においても、果樹カメムシ類の飛来が確認されている。
  - (4) 気象庁 7 月 13 日発表による向こう 1 か月の気象は、平均気温が平年よりも高い、または平年並の確率が 40%（低い 20%）、降水量は平年並の確率が 40%（少ない 30%、多い 30%）と予想されている。また、気象庁予報部は、「関東甲信地方は 7 月 17 日ごろ梅雨明けしたとみられる」と発表したことから、今後、高温で推移することが見込まれる。
  - (5) 夏季の高温は、果樹園へのカメムシ類の飛来行動を助長する傾向があるので、今後の気温上昇に伴って、さらに飛来数が増加し、果実への被害拡大が懸念される。

### 4 防除対策と留意点

- (1) 果樹カメムシ類の成虫の寿命は約 1 年と長く、多発年における成虫の果樹園への主な飛来時期は、6 月下旬から 8 月上旬と長期間にわたる傾向がある。
- (2) 果樹カメムシ類は、成虫が果樹園以外の場所から果樹園に飛来し、幼果・成熟果を問わず加害する。防除が遅れると被害は急増する傾向があるので、早めに防除する。
- (3) チャバネアオカメムシ、クサギカメムシについては移動範囲が広いので、できるだけ広域に一斉防除を行うのが望ましい。
- (4) 使用する薬剤は、表 1 を参考に選択する。合成ピレスロイド系薬剤については、防除効果は高いが使用地域が指定されていることに留意するとともに、多用すると他の害虫の異常発生を招くおそれがあるので注意する。
- (5) 成虫は波状的に飛来してくるので、特に多発園においては、散布間隔 10 日以内を厳守し効果的な薬剤防除を行う。
- (6) 気温の高い日が 2 ~ 3 日続くと移動が活発になることが多いので、今後の気象情報、発生予察情報に注意する。

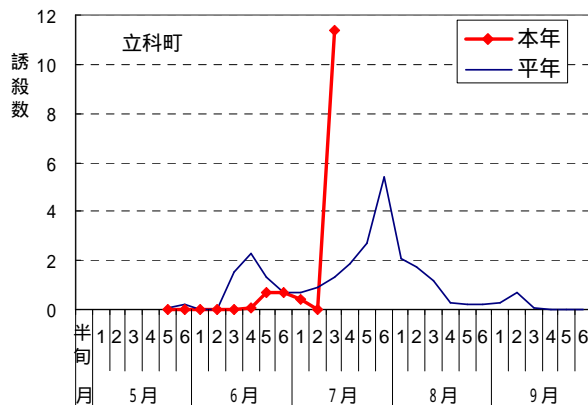


図 1 調査地：雑木林隣地のりんご園  
平年は 2007 ~ 2011 年の平均値

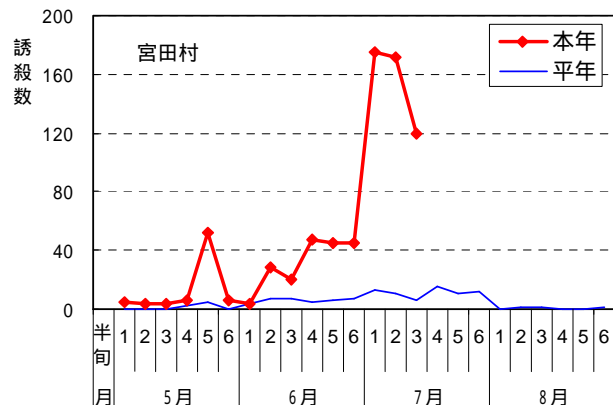
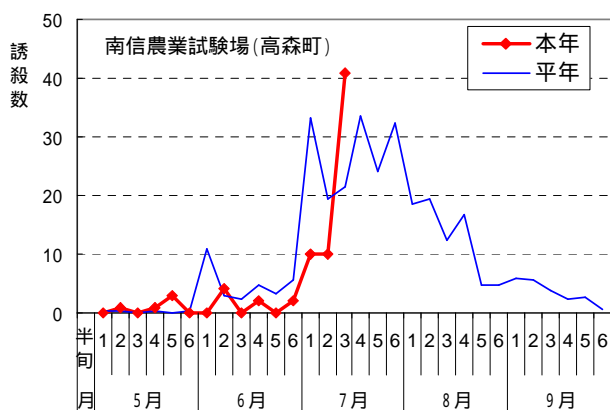


図 2 調査地：りんご園隣地の雑木林  
平年は 2007 ~ 2011 年の平均値



チャバネアオカメムシ成虫

表1 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	系統	薬剤名	希釈倍率	収穫前使用基準	使用回数			
りんご	有機リン	スミチオン水和剤40	800～1000倍	30日前まで	3回以内			
		スプラサイド水和剤	1500倍	30日前まで	2回以内			
		アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	7日前まで	2回以内			
	ネオニコ	アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	3回以内			
		ダントツ水溶剤	2000～4000倍	前日まで	3回以内			
		モスピラン水溶剤	2000～4000倍	前日まで	3回以内			
		モスピラン顆粒水溶剤						
なし	有機リン	スミチオン水和剤40	800～1000倍	(有袋)14日前まで	6回以内			
				(無袋)21日前まで	6回以内			
	合ピレ	スプラサイド水和剤	1500倍	(有袋)7日前まで	3回以内			
				(無袋)45日前まで	2回以内			
	ネオニコ	MR.ジョーカー水和剤	2000倍	14日前まで	2回以内			
		アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤				2000倍	前日まで	3回以内
		ダントツ水溶剤				2000～4000倍	前日まで	3回以内
もも	有機リン	スミチオン水和剤40	800～1000倍	3日前まで	6回以内			
		アーデント水和剤		1000倍	前日まで	3回以内		
	合ピレ	アグロスリン水和剤	2000倍	7日前まで	5回以内			
		テルスター水和剤		1000倍	14日前まで	2回以内		
	ネオニコ	アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	3回以内			
		ダントツ水溶剤				2000～4000倍	7日前まで	3回以内
		モスピラン水溶剤				2000～4000倍	前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤								
ぶどう	ネオニコ	アルバリン/スタークル 顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	3回以内			

注) 表中の系統名の「有機リン」は有機リン剤、「合ピレ」は合成ピレスロイド剤、「ネオニコ」はネオニコチノイド剤を示す。

なお、合成ピレスロイド剤は使用地域の指定があるので、使用にあたっては病害虫防除所、農業改良普及センター、JA等へ照会して確認する。

長野県病害虫防除所

所長：平井尚之

次長：南島 誠 (中南信担当)

担当：高野正美 (中南信担当)

TEL:0263-53-5642 FAX:0263-54-4508

E-mail:bojo-y@pref.nagano.lg.jp